

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	介護保険賦課徴収事務事業				②事業番号	4518			
③事業類型	1. 法上(必須)事業			④開始年度	平成 12 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし		
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 介護保険法		
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他				
⑧関連予算科目コード	款	1	項	2	目	1	細目	1	
⑨担当部名	健康福祉部			⑩担当課名	長寿社会推進課			会計	介護保険事業特別会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 介護保険第1号被保険者	① 被保険者数	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
介護保険法、介護保険法施行規則、本市介護保険条例等関係法令に基づき、被保険者の前年度所得に対して保険料を算定し賦課する。納付方法は年金からの天引き(特別徴収)と口座振替・納付書による納付(普通徴収)がある。	① 賦課額	千円
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
介護保険料を正しくおさめてもらう。	① 徴収率	%
	計算式: 収納額 / 調定額	
	② 計算式:	
	③ 計算式:	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
介護保険事業の財源を確保する。	政策(章) 2	みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節) 3	みんなで支えあう福祉のまちをめざします
	施策中 2	高齢福祉の充実
	施策小 1	介護サービスの充実

【2】各種指標値、事業費の推移

		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	被保険者数	人	17,690	17,572	17,622	17,800	17,800		指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②									
活動指標①	賦課額	千円	1,271,908	1,277,923	1,179,845	1,265,748	1,265,748		
活動指標②									
活動指標③									
成果指標①	徴収率	%	97	95	96	97	97		—
成果指標②									
成果指標③									
事業費	投入人員	正職員	人	1.00	1.00	1.00	2.00		事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明
		任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
		臨時職員	人	0.70	0.70	0.70	0.70		
	事業費	人件費(投入人員 * 単価)	千円	9,272	8,880	8,889	16,521		
	直接事業費	千円	4,974	5,467	6,164	7,263			
	総事業費	千円	14,179	14,347	15,053	23,784			
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—	
	府支出金	千円	0	0	0	0			
	受益者負担金	千円	0	0	0	0			
	その他特定財源	千円	0	0	0	0			
	一般財源	千円	14,179	14,347	15,053	23,784			

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	介護保険制度の開始。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	高齢化に伴い、65歳以上人口が増えることで、事務が漸増している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	法の定めに従っている。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	収納率は高値で推移している。
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある アイ. ない	滞納整理によるさらなる収納率の向上。
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし ウイ. できる ウ. できない	—

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

A

⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ イ. ない	既に行っている範囲でのIT化、委託化は行われている。
--	---------------------	----------------------------

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	—	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	<p>ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止</p> <p style="text-align: center;">(___ 年まで) (___ 年から) (___ 年から)</p>
ア	<p><今後の展開方針></p> <p>a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)</p> <p>c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)</p>
①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—